

# 嶋満神社便り

平成二十九年七月号(第二十三号)  
発行 嶋満神社奉賛会

## 金運アップの決定打！

### 「御金神社」…みかねじんじや

今回はいつもと違って、極めて俗っぽいお話からスタートです。

「御金神社」、京都市の町の中、「西洞院通り御池上る」というビルに囲まれた一角に、そこはあります。

祭神は金山彦命(カネヤマヒコノミコト)。もともととは鉾山、鉾物の神様ということで、国つくりに欠かせない金属や農耕のための道具に関する信仰を集めていたのが、いつの頃からか、金運の神様となったようです。

西洞院通りに面して建つ黄金に輝く鳥居が金運アップへの期待感をそそります。

狭い境内ではお守りやご神木のイチヨウを型取った金色のおみくじなども販売され、宝くじ当選や競輪競馬の中、資産運用成功などを願う善男(?)善女(?)で賑わっていました。

もちろんワタクシもお守りを買ってきましたが、さて…。



(御金神社)

## 嶋満神社はいつ頃からあったのか?

いつものお便りらしい話題に戻りましょう。問題です。嶋満神社はいつからあるのか?

答えは、現在の拝殿(建物)ならば一番古い棟札の日付は寛永十九年(一六四二)、江戸時代です。

では神様はいつ頃からお祀りされているのか?

言い伝えによれば貞観年間(九世紀)、しかし

いろんな資料から、民俗学的に見ればおそらく古墳時代以前であろうと言われています。

ではそのころ、あの山には何があったのか…? どんな祭殿があったのか…?

答えは「おそらく何もなかっただろう」です。「どーゆーこと?」ってなりますが…。

もともと神道には祭殿も何もなく、お祭りのときだけ屋外に臨時にそのような場所が設けられた…ちよūd建設現場の地鎮祭の時のように(神道はなぜ教えないのか 島田裕巳著)。

もちろんそこは聖なる場所であったことは間違いない。八幡さんの聖地、宗像神社の沖津島が現在もそうであるように。

そこでは社殿も祭殿もなく、今も祭祀は露天で巨大な岩の上や岩陰で行われています。

さて昨年十一月号にも記した様にこの浮島の山は「吹戸の御碕、浮島」と呼ばれていました。※吹戸(ふきど、または気吹戸…いぶきど)…

神が息を吹きかけて穢れを禳う神聖な出入り口。つまりこの浮島の山(当時は小島)は長谷山古墳への神様の出入り口、古代の人にとって大変大切な場所だったと言えます。長谷山には初代丹波国造(たんばくにのみやつこ)を葬ったという記録があり、古墳の石室からは白骨、金環数個、環頭の太刀が出土したという言い伝えもあるのですから、ここは相当高級な聖地だったことがうかがえます。

そしてこの聖なる山上で、必要な時にだけ露天で祭祀が行われていたことが想像されます。

ところで前述の御金神社ですが、元は「鉾物の神様」と書きました。我が八幡さんの総本宮、宇佐神宮も、もともとは奈良の大仏造営に力を発揮した「鍛冶神」です。何やら親しいものを感じさせるではありませんか。

話がつながったところでまた次号にて。

\*前号の桜は、丹後鉄道、四所駅前でした。

八月二十日(日)午後三時半から例祭です。

参拝者にはおみくじ付き福餅授与!

(引換券が必要です)